

### TITLE OF THE INVENTION

Computing Method for accounting

### BACKGROUND OF THE INVENTION

#### Field of the invention

本発明は、会計演算処理方法に係り、より詳しくは複式簿記の原理に基づく会計作業を簡素化し、平易かつ瞬間にしかも大量のデータを入力することの出来る簡易決算システムにおける会計演算処理方法に関する。

#### Related Arts

会計処理のために用いられる帳票には、複式簿記の原理に基づくものが広く使用されている。このような複式簿記に基づく会計業務は複雑かつ困難を併うため、専門家にこれを依頼して記帳を行うことが多かった。

また、複式簿記のアプリケーションソフトウェアを搭載したパーソナルコンピュータを用いて、電子的に帳票の記載を行うことも行なわれているが、入力処理が複雑であったり、決算書類の作成に時間がかかるなどの問題も多かった。

このように専門家に依頼したり、多大の費用と手間をかけて会計処理を行っても、この結果得られるものが、期末の決算表と月末の試算表とが精々であるというのが現状である。決算表及びこれに至る間に付随して作成される諸勘定・財務諸表等は、過去の記録として保存すべき重要なものである。

しかしながら会計処理の本来のもう一つの重大目的は、取引の発生毎に入力（記入）と同時に決算書その他の帳票を作成することによって、現在を把握し将来を洞察できる「経営の羅針盤」たらしむることにある。従来の会計演算処理方法においては、取引の入力毎に決算書等が作成できなかったため会計本来の目的を達成できないという問題点もあった。

### SUMMARY OF THE INVENTION

本発明は上述した従来の会計演算処理方法の問題点を解消するためになされたもので、容易・簡素に操作できる会計演算処理方法を提供することを目的とする。

また、本発明の他の目的は、入力処理を実施するとほぼ同時に決算書等の書類（帳票）を作成することの出来る会計演算処理方法を提供することにある。

さらに本発明の他の目的は、入力件数を大幅に増加することの出来る会計演算処理方法を提供することにある。ここで大幅とは、いかなる現実的な需要にも応じることが出来る程度の極めて大幅である。

上記目的を達成するために、(a) 入力設定セルと出力表示セルとを含む格子状のセルで構成される会計作業画面を作成可能な表計算ソフトをインストールに格納する第1のステップと、

(b) 前記入力設定セルに入力された数値に基づいて、前記出力表示セルに表示される数値を決定する関数式及び／又は計算式を格納する第2のステップと、

(c) 少なくともN個の異なる構成からなる前記会計作業画面を呼び出してディスプレイ上に展開配列する第3のステップと、

(d) 所定の入力設定セルに所定の数値を入力する第4のステップと、

(e) 入力された前記所定の数値に基づいて前記関数式及び／又は計算式により所定の演算を行い、演算結果を表わす数値を所定の出力表示セルに表示させ前記各会計作業画面を完成させる第5のステップと、

からなる会計演算処理方法が開示されている。

上記会計演算処理方法において、前記第4のステップは取引発生時に取引単位毎に実行することが出来る。

さらに、上記会計演算処理方法において、前記Nは8とすることが出来る。

また、上記会計演算処理方法において、前記会計作業画面が金の流れの発生を入力するための第1画面を含むことが出来る。

上記会計演算処理方法において、前記会計作業画面が物の流れの発生を入力するための第2画面を含むことが出来る。

上記会計演算処理方法において、前記会計作業画面が商品管理の表示を行うための第3画面を含むことが出来る。

上記会計演算処理方法において、前記会計作業画面が得意先管理の表示を行うための第4画面を含むことが出来る。

上記会計演算処理方法において、前記会計作業画面が経費・貸借の各勘定科目別金額の表示を行うための第5画面を含むことが出来る。

上記会計演算処理方法において、前記会計作業画面が決算の表示を行うための第6画面を含むことが出来る。

上記会計演算処理方法において、前記会計作業画面が所定の方式に基づく決算書の表示を行うための第7画面を含むことが出来る。

上記会計演算処理方法において、前記会計作業画面が経営比率分析の表示を行うための第8画面を含むことが出来る。

上記会計演算処理方法において、前記第4のステップは会計期間の期首毎に実行することが出来る。

上記会計演算処理方法において、前記第4のステップは会計期間の期末毎に実行することが出来る。

前記会計演算処理方法において、(f)さらに、前記第1～第5のステップにより完成した前記各会計作業画面を格納した第1のフィルムと第2のファイルとを作成する第6のステップと、

(g)前記第1のファイルを保存及び印刷した後に前記第2のファイルを呼び出して展開配列した後再び前記第1のファイルを起動する第7のステップと、

(h)前記第7のステップにより起動された前記第1のファイルに対して会計処理の原則に基づく所定の演算処理を施す第8のステップと、

(i)前記第8のステップにより演算処理の施された前記第1のファイルを前記第7のステップで展開配列された第1のファイルに結合させることにより前記第1ファイルの最終状態を前記第2のファイルに承継させる第9のステップとを設けることが出来る。

#### BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS

図1は、取引に於ける金銭管理を行う入力会計作業画面である。

図2は、取引に於ける仕入・販売管理を行う入力会計作業画面である。

図3は、取引に於ける商品管理を行う入力会計作業画面である。

図 4 は、取引に於ける得意先管理を行う入力会計作業画面である。

図 5 は、取引に於ける経費・貸借の各勘定科目別金額の表示を行う入力会計作業画面である。

図 6 は、取引に於ける決算の表示を行う入力会計作業画面である。

図 7 は、取引に於ける所定の方式に基づく決算書の表示を行う入力会計作業画面である。

図 8 は、取引に於ける経営分析の表示を行う入力会計作業画面である。

図 9 は、取引に於ける金銭管理を行う出力会計作業画面である。

図 10 は、取引に於ける仕入・販売管理を行う出力会計作業画面である。

図 11 は、取引に於ける商品管理を行う出力会計作業画面である。

図 12 は、取引に於ける得意先管理を行う出力会計作業画面である。

図 13 は、取引に於ける経費・貸借の各勘定科目別金額の表示を行う出力会計作業画面である。

図 14 は、取引に於ける決算の表示を行う出力会計作業画面である。

図 15 は、取引に於ける所定の方式に基づく決算書の表示を行う出力会計作業画面である。

図 16 は、取引に於ける経営分析の表示を行う出力会計作業画面である。

#### DETAILED DESCRIPTION OF THE PREFERRED EMBODIMENTS

本発明の会計演算処理を行うためには、まず、パーソナルコンピュータやワードプロセッサ（以下総称してパソコンという）に、表計算用のソフトウェア（以下表計算ソフトという）を予かじめインストールして格納しておかなくてはならない。このような表計算ソフトとしては例えばロータス 1, 2, 3（登録商標）またはエクセル（登録商標）等が知られている。このような表計算ソフトを使用して本発明に使用する会計作業画面を作成する。会計作業画面は複数の互いに構成の異なる画面から構成されており、格子状のセルで構成され、各セルはその中に入力を行うことが出来る入力設定セルと、表示を行うことの出来る出力表示セルとを含んでいる。本発明においては、この入力設定セルには数値のみが入力さ

れる。さらに、この入力設定セルに入力された数値に基づいて、出力表示セルに表示される数値を決定する関数式又は計算式を、予かじめこの表計算ソフトに入力して格納しておかなくてはならない。

なお、具体的な関数式又は計算式については後述する。

図1～図8はいずれも入力設定セルに取引を示す数値が入力される前の会計作業画面（以下入力会計作業画面という）を示したものである。

図1は第1画面と呼ばれ、取引における金銭管理を行うもので、いわゆる金の流れ（普通預金・郵便振替預金・現金・当座預金）の発生を入力するために用いられる。

また、これらの各残高と会計残高とを表示する。さらに、印刷と画面展開のための設定範囲の一覧表や、経費・貸借の勘定科目別コード表も画面上に表示されている。

図2は第2画面と呼ばれ、取引における仕入・販売管理を行うもので、いわゆる物の流れ（仕入・販売）の発生を入力するために用いられる。

商品・仕入先・販売先のコード一覧表も表示されている。

図3は、第3画面と呼ばれ、取引における商品管理を行うもので、そのための表示が行なわれる。

前期繰越・仕入・販売・差引残（荒益）・棚卸（帳簿上）の商品別の数量と金額とが表示される。

図4は、第4画面と呼ばれ、取引における得意先管理を行うもので、仕入先・販売先別の金額の表示が行なわれる。

図5は、第5画面と呼ばれ、取引における経費・貸借の各勘定科目別金額の表示を行うもので、手形受取・発行金額の入力を行う。またデータ室と呼ばれる領域が設けてあり、すべてのデータを集中し、決算へと送り込むために用いられる。

図6は、第6画面と呼ばれ、取引における決算の表示を行うもので、試算表、精算表、損益計算書・貸借対照表・損益処分が表示される。

図7は、第7画面と呼ばれ、青色申告書書式などの所定の方式に基づく決算書の表示を行うための画面である。

図8は、第8画面と呼ばれ経営比率分析の表示を行うための画面である。

次に、これらの第1～第8画面を用いて本発明の会計演算処理を行う方法について説明する。

まず、表計算ソフトをパソコンのディスプレイに呼び出して第1～第8画面を展開配列する。配列は第1～第8画面を左より右に並べる。なお、各画面は横122文字、縦8行とし、印刷したときB4判大となるよう設計する。第1画面のみは縦に6個の頁が並び（第1頁～第6頁）、第2～第8画面は1頁のみである。各画面とも格子状の罫線が引かれ、多くの升目（セル）が形成されている。

このセル中に入力または演算結果が表示される。次に表計算ソフトに格納された関数式又は計算式を用いて入力設定セルに入力された数値から出力表示セルに表示される数値を決定する手順について予らかじめ設定する関数計算式とその意味及び入力設定位置を説明する。

### 第1画面

(\*)

計算式

H15 + I15 + J15 + K15 + L15

意味

H15, I15, J15, K15, L15の数字を合計し、それをこの位置(\*)に表示せよ。

入力位置(セル)

第1画面 (1頁)	G15 ~ G88	, M14 , M88
第1画面 (2頁)	G95 ~ G178	M178
第1画面 (3頁)	G185 ~ G268	M268
第1画面 (4頁)	G275 ~ G358	M358
第1画面 (5頁)	G365 ~ G448	M448
第1画面 (6頁)	G455 ~ G538	M538

(但し、H～Lの数字はセル毎に異なる)

なお、G列については画面整理と印刷範囲の都合上列幅を1（最小限）とするため(\*)となって関数・計算式が表示されないが、セルを移せば表示される。

①

関数式

@IF (@COUNT(H15..L15) = 0, "", "+M14+G15")

意味

H15～L15の数字を合計したものをM列の1行上の数字に加えたものをここ((1))に表示せよ。  
もし、H15～L15の合計が0のときはM列の1行上の数字をそのまま表示せよ。

入力位置(セル)

第1画面 (1頁) M 15 ~ M 87  
第1画面 (2頁) M 95 ~ M 177  
第1画面 (3頁) M 185 ~ M 267  
第1画面 (4頁) M 275 ~ M 357  
第1画面 (5頁) M 365 ~ M 447  
第1画面 (6頁) M 455 ~ M 537

(但しM, Gの数字はセル毎に異なる)

②

関 数 式

@SUM(H 1 4 .. H 8 7)

意 味

H 1 4 から H 8 7 までを合計して、この位置 (②) に表示せよ。

入力位置(セル)

H 8 8

③～⑩ 第1画面 (1頁) (3) ~ (6) 第1画面 (4頁) (17) ~ (21)  
第1画面 (2頁) (7) ~ (11) 第1画面 (5頁) (22) ~ (26)  
第1画面 (3頁) (12) ~ (16) 第1画面 (6頁) (27) ~ (31)

上記のものは、②に準ずる。但し第1画面 (2頁) 以降は次の備考を参照。

(備 考) 各図面の継続性と累計の出し方

第1画面 (1頁) のH 8 8 の数字を、第1画面 (2頁) のH 9 4 に複写する計算式をH 9 4 に設定入力する。I 8 8, J 8 8, K 8 8, L 8 8, M 8 8 についても、これに準ずる。

次に、第1画面 (2頁) の合計に当たっては、複写せられたH 9 4 の数字（即ち第1画面 (1頁) の合計）を含む「累計」とするため@SUM(H 9 4 .. H 1 7 7) の関数式を設定入力する。以下同様である。

第2画面

①

関 数 式

@SUM(U5 .. U87)

意 味

U 5 から U 8 7 までを合計して、この位置 (①) に表示せよ。

入力位置(セル)

U 8 8

(備考) ②については、すべて①に準ずる。

コード番号

W 1 ~ W 8 1	商品コード番号
X 1 ~ X 8 1	商品名 <input type="radio"/>

Y 1 ~ Y 8 4	仕入先コード番号
Z 1 ~ Z 8 4	仕入先名 <input type="radio"/>

AA 1 ~ AA 4 1 8	販売先コード番号
AB 1 ~ AB 4 1 8	販売先名 <input type="radio"/>

○印は、前期未繰越時に入力。増減・変更が可能である。

従って、保護処理としない。

■, △印は、単なる飾りではなく大切な機能の設定として重要である。

従って、保護処理とする。

### 第3画面

①

関数式

@DSUM (R \$ 4.. T \$ 8 8, 2, AK \$ 6.. AL \$ 7)

意味

R 4 ~ T 8 8 の範囲の中からコード1のものをすべて拾いだした上、集計して AK 6 ~ AL 7 に表示し、それをこの位置(①)に再表示せよ。  
(但し画面整理上非表示処理)

入力位置(セル)

A Q 6 ~ A Q 8 6 (但し AK と AL の数字はセル毎に異なる)

②

関数式

@DSUM (R \$ 4.. U \$ 8 8, 3, AK \$ 6.. AL \$ 7)

意味

R 4 ~ U 8 8 の範囲の中からコード1のものをすべて拾いだした上、集計して AK 6 ~ AL 7 に表示し、それをこの位置(②)に再表示せよ。

(但し画面整理上非表示処理)

入力位置(セル)

A R 5 ~ A R 8 6 (但し A K と A L の数字はセル毎に異なる)

③

関 数 式

@DSUM (A F \$ 4 .. A H \$ 8 8 , 2 , A K \$ 6 .. A L \$ 7 )

意 味

AF 4 ~ AI 8 8 の範囲の中からコード 1 のものをすべて拾いだした上、集計して、AK 6 ~ AL 7 に表示し、それをこの位置 (③) に再表示せよ。

(但し画面整理上非表示処理)

入力位置(セル)

A S 6 ~ A S 8 6 (但し A K と A L の数字はセル毎に異なる)

④

関 数 式

@DSUM (A F \$ 4 .. A I 8 8 , 3 , A K \$ 6 .. A L \$ 7 )

意 味

AF 4 ~ AI 8 8 の範囲の中からコード 1 のものをすべて拾いだした上、集計して、AK 6 ~ AL 7 に表示し、それをこの位置 (④) に再表示せよ。

(但し画面整理上非表示処理)

入力位置(セル)

A T 5 ~ A T 8 6 (但し A K と A L の数字はセル毎に異なる)

⑤

関 数 式

A M 6 + A Q 6 - A S 6

意 味

AM 6 (繰越数量) に AQ 6 (仕入数量) を足したものから AS 6 (販売数量) を引いたものを、この位置 (⑤) に表示せよ。

A U 6 ~ A U 8 6 (但し AM, AQ, AS の数字はセル毎に異なる)

⑥

関 数 式

A T 6 - A R 6 - A N 6

意 味

AT 6 (販売金額) から AR 6 (仕入金額) と AN 6 (繰越金額) とを引いたものを、この位置 (⑥) に表示せよ。

入力位置(セル)

A V 5 ~ A U 8 6 (但し AT, AR, AN の数字はセル毎に異なる)

⑦

計算式

A W 6 × A U 6

意味

A W 6 (棚卸用の②) に A U 6 (在庫数量) を掛けたものを、この位置 (⑦) に表示せよ。

入力位置(セル)

A X 6 ~ A X 8 6 (但し A W, A U の数字はセル毎に異なる)

⑧

関数式

@SUM(A M 6, A M 8 7)

意味

A M 6 から A M 8 7 までを合計して、この位置 (⑧) に表示せよ。

入力位置(セル)

A M 8 8

⑨～⑯

⑧に準ずる

A P 列の 0 ~ 8 1 の一連番号は商品名のコード番号 (保護処理)。

A O 列の商品名は繰越の入力時に入力する。増減・変更が可能である。(従って保護処理としない)

⑩は単なる飾りではなく大切な機能の設定として不可欠のもの。(保護処理)

A K 4 ~ 1 6 7 に機能中枢的重要な設定があるが図面整理と印刷範囲逸脱のため(非表示処理)としてあるので見ることが出来ないが、セルを A K 列に移すと表示される。

#### 第 4 画面

①

関数式

@DSUM( S \$ 4 .. U \$ 8 8, 2, A Z 3 .. B A 4 )

意味

S 4 ~ U 8 8 の範囲の中からコード 1 のものをすべて拾いだした上、集計して A Z 3 ~ B A 4 に表示し(但し画面整理上非表示処理)それをこの位置 (①) に再表示せよ。

【入力位置(セル)】

B C 4 ~ B C 8 7 (但し A Z と B A の数字はセル毎に異なる)

②

【関 数 式】

@DSUM( A G \$ 4 .. A I \$ 8 8 , 2 , A Z 3 .. B A 4 )

【意 味】

①に準ずる。

【入力位置(セル)】

B F 4 ~ B F 8 7  
B I 4 ~ B I 8 7  
B L 4 ~ B L 8 7  
B O 4 ~ B O 8 7  
B R 4 ~ B R 8 5

(但し A Z と B A の数字はセル毎に異なる)

③

【関 数 式】

@SUM( B C \$ 4 .. B C \$ 8 7 )

【意 味】

B C 4 から B C 8 7 までを合計して、この位置 (③) に表示せよ。

【入力位置(セル)】

B C 8 8

④~⑧

すべて③に準ずる。

⑨

【計 算 式】

BF88 + BI88 + BL88 + BO88 + BR87

【意 味】

小計である B F 8 8 , B I 8 8 , B L 8 8 , B O 8 8 ,  
B R 8 7 を加算した合計の数字を、この位置 (⑨) に表示せよ。

【入力位置(セル)】

B R 8 8

●印は、単なる飾りではなく大切な機能の設定として不可欠である。

従って、保護処理とする。

A Z 3 ~ A Z 8 3 8 に機能中枢的な重要設定があるが、画面整理と印刷範囲の逸脱のため（非表示処理）としてあるので見ることができないが、セルを A Z 列に移すと表示される。

第4画面については印刷画面を2枚（B4判大）にすれば、コード番号の横に仕入先名・販売先名を入力することが可能である。なお、第2画面についても同様である。

但し、本「簡易決算システム」においては、瞬間決算完結に重点指向し他の枝葉末節を排除して、飽くまでも機能簡潔単純、操作簡単平易を実現する為、極限までムダをなくすことに配慮している。

### 第5画面

意味	入力位置	関数式・計算式
関数計算式 の意味は 第3画面に 準ずるので 省略する	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 51 52 53 54 61 62	@DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$BU4..\$BV5) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$BU6..\$BV7) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$BU8..\$BV9) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$BU10..\$BV11) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$BU12..\$BV13) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$BU14..\$BV15) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$BU16..\$BV17) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$BU18..\$BV19) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$BU20..\$BV21) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$BU22..\$BV23) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx4..\$By5) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx6..\$By7) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx8..\$By9) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx10..\$By11) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx12..\$By13) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx14..\$By15) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx16..\$By17) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx18..\$By19) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx20..\$By21) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx22..\$By23) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx24..\$By25) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx26..\$By27) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx28..\$By29) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx30..\$By31) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx32..\$By33) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx34..\$By35) @DSUM(\$F\$13..\$G538, 1, \$Bx36..\$By37) @SUM(BW5..BW49) +M14 @SUM(CA5..CA49) +BW51+BW50+CA50 @SUM(CL5..CL49)+@SUM(CJ5..CJ49) @SUM(CP5..CP49)+@SUM(CN5..CN49)
	100 101	+CA58+CA59+CA60+CA61 +H538

102	+I538
103	+J538
104	+K538
105	+BW63-CA87+CA65-BW5
106	+BW64-CA88+CA66+BW7
107	+BR88+CJ65
108	+BC88+CJ66
109	+AX88
110	-CA50
111	+BW71
112	-BW13
113	+BW73+BW9
114	+BW74-BW11
115	+BW75+BW21
116	+BW76+CA87-BW17
117	+BW77+CA88+BW19
118	+BW78
119	+BW79-BW23
120	+BW80-BW25
121	+BW81+BW15
122	ナシ(不要)
123	+CP50
124	+CL50

B U 4 ~ B U 3 9 と B X 4 ~ B X 4 9 に機能中枢的な入力があるが画面構成の都合で（非表示処理）をしてあるので見ることが出来ない。セルを B U 列と B X 列に移せば表示される。

## 第 6 画面

### 入力位置(セル)

関数・計算式を記載してある位置（セル）にその関数・計算式を入力設定してある。

### 意味

#### 1 例

C Z 4 7  
この位置に C Z 4 7 の数字を複写して表示せよ。

#### 1 例

C Z 1 2 - C X 1 3  
この位置に C Z 1 2 から C Z 1 3 を引いたものを表示せよ。

#### 1 例

@ S U M ( D D 2 2 . . . D D 4 8 )  
この位置に D D 2 2 ~ D D 4 8 を合計して表示せよ。

## 第 7 画面

すべて、第 6 画面に準ずる。

## 第 8 画面

すべて第 6 画面に準ずる。

以上のように各画面について入力設定セルと出力表示セルとの間を関数式及び／又は計算式により関連付けることにより、取引毎に所定の画面の入力設定セルに数字を入力した瞬間に、関連する出力表示セルを有する画面の出力表示セルに数字が表示され、決算諸表、その他の諸表が 1 件毎に変化して表示される。

次に、モデル数字を用いて結果（決算）を入力 1 件ごとに、入力と同時に瞬間に表示する操作方法を説明する。

なお、本発明の好ましい実施の形態によれば、日常の取引毎の入力は各画面に「★」で示す入力設定セルに 3 カ所、期首においては「◎」で示すセルに 3 カ所、期末においては「●」で示すセルに 1 カ所行なわれる。また入力項目がいっぱいになった時、あるいは所定の期間（1 カ月又は 2 カ月）毎に随時結合処理が行なわれるが、この結合処理については後述する。

## 期首入力（その1）

<入力場所> 第5画面

<入力方法>

前期末の貸借対照表の数字を右記のように全て正数で入力する。

### 凡 例

1. <備考>で注記した「自動表示」及び「予め設定入力」してあるものを除き本表の如く、ワク内に1ヶ所だけ入力する。  
(2ヶ所入力を原則とする複式簿記の原則を1ヶ所で充足してある)
2. 本説明以外の箇所に入力してはいけない。  
すべて保護処理により入力不可能にしてあるが、一部できない部分があり、その部分に入力するときは、機能を失うので、しないこと。  
また、保護処理を解除しないこと。
3. 本表は1999年1月1日より開始したものである。
4. <備考>で注記した以外はすべて「正」の数字を入力するが、金銭管理の出金のみは「負（-）」を付ける。

前 期 末		
銀行	◎	1, 0 0 0, 0 0 0
郵便	◎	5, 0 0 0, 0 0 0
現金	◎	3 0, 0 0 0, 0 0 0
当座	◎	2 0, 0 0 0, 0 0 0
売掛	◎	5 0, 0 0 0, 0 0 0
買掛	◎	2 0, 0 0 0, 0 0 0
販売		
仕入		
棚卸	◎	4 0, 0 0 0, 0 0 0
経費		
資本	◎	1 4 8, 0 0 0, 0 0 0
店主貸		
借入	◎	1 5, 0 0 0, 0 0 0
貸付	◎	1 3, 0 0 0, 0 0 0
前受	◎	
受手	◎	
支手	◎	
固資	◎	2 4, 0 0 0, 0 0 0
出資	◎	
投資	◎	
預り	◎	
引当	◎	
受手受取		
支手発行		

## 期首入力（その2）

<入力場所> 第1画面（1頁）

<入力方法> 下記の様に各欄に入力する。

年	月	日	摘要	*	銀行	郵便	現金	当座		残高
11	1	1	繰越金		1,000,000	5,000,000	30,000,000	20,000,000		56,000,000
				1 * *						

当座の右の欄は結合時に必要のため、  
使用してはいけない。

(\*)とその下の数字は予め保護処理をし固定設定してある。

## 期首入力（その3）

<入力場所> 第3画面

<入力方法> 下記の様に各欄に入力する。

繰 越		商品名		
数量	金 額		@	
....	0	消費税	0	
20,000	10,000,000	ノート	1	
20,000	4,000,000	定規	2	
75,000	6,000,000	ボールペン	3	
50,000	20,000,000	紙ばさみ	4	

帳簿上の棚卸	
@	金 額
....	....
500	11,000,000
200	4,800,000
80	2,000,000
400	8,000,000

@と0～81の数字は予め保護処理をし固定設定してある。  
商品名と@は使用開始に当たり入力しておく。

## 日常入力（その1）

<入力場所> 第1画面（2頁）

<入力方法> 下記の様に各欄に入力する。

年	月	日	摘要	*	銀行	郵便	現金	当座		残高
			前頁より		1,000,000	5,000,000	30,000,000	20,000,000		56,000,000
11	1	4		1 *	5,000,000					61,000,000
		5		2 *		-2,000,000				59,000,000
		6		3 *				1,500,000		60,500,000
		7		4 *			-1,300,000			59,200,000
		8		31 *			-150,000			59,050,000
		9		32 *			-200,000			58,850,000
				*						
				*						

期首入力は、第1画面（1頁）、日常入力は第1画面（2頁）から開始する。

(\*) の下に勘定科目別コード番号を入力する。前頁よりと残高は自動表示される。

## 日常入力（その2）

<入力場所> 第2画面

<入力方法> 下記の様に各欄に入力する。

仕 入					
月	日	①	②	数量	金額
縦越	***	***	***		0
1	5	1	2	2000	1,000,000
		0	2		50,000
1	7	2	3	4000	800,000
		0	3		40,000

得意品先  
コード表

販 売					
月	日	①	②	数量	金額
縦越	***	***	***		0
1	10	3	5	50000	5,000,000
		0	5		250,000
12	4	7	30000	15,000,000	
		0	7		750,000

商品のコード番号0は消費税を示す。

①の下に商品のコード番号、②の下に得意先のコード番号を入力する。

### 日常入力（その3）

<入力場所> 第5画面

<入力方法> 下記の様に所定欄に入力する。

支 払 手 形	発 行	受 取 手 形	受 取
3, 0 0 0, 0 0 0		2, 5 0 0, 0 0 0	

手形の支払・入金は金錢管理で扱うので、入力しない。

### 期末入力

<入力場所> 第6画面

<入力方法> 下記の様に精算表の所定欄に入力する。

社交	2 0 0, 0 0 0		# - 2 0 0, 0 0 0	0
店主貸	0		# 2 0 0, 0 0 0	2 0 0, 0 0 0

#のみ入力する。他は自動表示される。

社交（誤り）を店主貸（正）に振り替える1例である。

このようにして入力会計作業画面に取引を示す数値が入力され、関数式又は計算式により所定の演算処理が行なわれ、演算結果を表わす数値が出力表示セルに表示されて、各会計作業画面が完成した状態を示す画面（出力会計作業画面）を図9～図16に示す。

次に、入力設定セルの入力の余白がなくなった時に、既に入力したファイルのデータと新しいファイルのデータとを「結合」(&)することによる入力件数を増大させる方法について説明する。「結合」とは表計算ソフト操作上の用語で異なるフロッピー間の複写であるが「複写」「加算」「全部」「一部」の選択で結果が異なる。また単なる「結合」だけでは複式簿記の原理が継続しないから独特的の工夫が必要である。

f1(1月分)が終りf2(2月分)へ移行・結合(結合とはファイル間又はフロッピー間の複写の意)するものとして、その方法を説明する。

#### (1) 準備

- ・本システムの原本ファイルを呼び出し、これに前期末貸借対照表の数字を入

力したもの（既述の「◎」の操作）を f 1 とし、これと同じもの f 2 ~ f 12 を作る（1年分）ファイル名は f 1 、 f 2 、 f 3 ····· でも 1 、 2 、 3 ····· でもよいが必ず 1 字以上変えて区別する。

- f 1 の入力が完了すれば、必ず f 1 を「保存」（保存とはファイルに保存する意）と共に「印刷」する。

(2) 結合の基本操作（ロータス 1 · 2 · 3 を利用したとき）

- f 2 を呼び出して展開し、次に f 2 を抜き、 f 1 を入れる。

- 入力操作の手順（入力キーの打ち方）

「F 1 」、「F ファイル」、「結合」、「加算」、「\*」、「一部」、「\*」、「範囲」、「\*」、「題名（このときは f 1 ）」、「\*」、「カーソルをセル（範囲の先頭）の位置におく」、「\*」、「f 1 を抜く」、「f 2 を入れて保存する」。これで結合、即ち f 1 から f 2 への複写が、終了し f 1 と全く同じ f 2 が出来る。即ち、 f 1 の最終の状態を f 2 が承継したわけである（「\*」は実行キーの符号）

- f 1 のファイル・印刷したもの・原始記録を重要記録書類として保存する。

• 以上は基本操作であり、実際には次の(3)（複式簿記の原則を加味したもので入力件数増大化の実現）を行う。

(3) 入力件数増大化に基づく「結合とその他」の操作の方法を表 1 及び表 2 に示す。

[表 1]

	操作	指示	セルの位置	範囲	備 考
(1)	結合	加算	C I 5	11	f 2 に f 1 を結合
(2)			L 15	12	
(3)			L 34	13	
(4)	入力		図 1 に於て最後に入力した頁の次の頁(2頁)の「前頁より」の金額の下行に +, - の反対符号をつけた同金額を入力し相殺する。 そのもう一つ下行に第 5 画面のデータ室の今期末の銀行・郵便・現金・当座の金額を「f 1 を印刷したもの」を見て入力する。		
(5)	消去			15	一部消去
(6)	結合	加算	A M 6	16	f 2 に f 1 を結合
(7)			A N 6	17	
(8)	入力		「C A 6 5」の数字を「C J 6 5」に、「C A 6 6」の数字を「C J 6 6」に、「f 1 を印刷したもの」を見て入力する。		
(9)	結合	複写	W 5	18	先に一部消去 (範囲 1 8) を行う。
以上で完了したので、f 1 を抜き f 2 を入れて画面を f 2 に保存する。					

[表 2] 上記操作の細部の解説 (コードとは範囲のコード番号)

	コード	範 围 の 明 細	操 作 の 目 的
(1)	1 1	C I 5 ~ C P 5 0	図 5 の手形欄を f 1 から f 2 へ移すもの。
(2)	1 2	B W 5 ~ B W 2 3	図 5 の貸借欄を f 1 から f 2 の図 1 ~ 1 へ移すもの。
(3)	1 3	C A 5 ~ C A 3 7	図 5 の経費欄を f 1 から f 2 の図 1 ~ 1 へ移すもの。
(4)			上記操作法説明のとおり (金銭関係)
(5)	1 5	A M 6 ~ A M 8 7	図 3 の繰越商品の数量・金額を消去する
(6)	1 6	A U 6 ~ A U 8 7	f 2 の図 3 の繰越商品の数量へ f 1 の商品残高数量を移すもの。
(7)	1 7	A X 6 ~ A X 8 7	f 2 の図 3 の繰越商品の金額へ f 1 の商品残高数量を移すもの。
(8)			上記操作法説明のとおり (仕入・販売関係)
(9)	1 8	W 5 ~ A B 4 4 8	コード表を更新するもの。

[f 1 の最後の状態を f 2 が承継したので f 2 は f 1 と決算が同一でなければならぬ。同一でないときは操作入力にミスがあるので、やり直すこと]

以上の方針により、新しいフロッピー（ファイル）への承継を繰り返すによって入力件数を大幅に増大することが出来る。

なお上述の説明及び画面において使用した記号「◎」、「●」、「★」、「&」、「\*」、「」、「」について補足して説明する。

(1) 入力する時期により区別した符号。

◎印－期首－1月1日又は4月1日が普通であるが、途中からでもよい。前期末貸借対照表の数字を入力する。

●印－期末－時期は上記に準ずる。精算事務を行う精算表である。

★印－日常－1取引ごとに1ヶ所（2ヶ所ではない）に入力する。簡便な日記帳又は備忘録（原始記録）に基づき1件ごとを、その都度か毎日か又はまとめて入力してもよい。[原始記録は必ず保存することが大切である]

&印－随時－入力の余白がなくなった時、又は1週間、1ヶ月のように、余白を残し区切りをつけてしてもよい。使用中のフロッピー（ファイル）を新しいものに結合機能により且、複式簿記の原則に従い複写することにより入力件数を大幅に増大させる。

(2) \*印、印、印はコード番号の符号。

(3) 画面の展開及び印刷の範囲の数字による符号。

例えば図3の範囲である「AM1～AX88」を、「3」としてあるから画面展開のとき「F5・3・実行」の入力で瞬時に図3が展開する。印刷のときの範囲設定は単に「3」と入力する。（F5はファンクションキー）

(4) 例えば1ヶ月ごとに1ファイル（フロッピー）との設定をしたとき、1月をf 1、2月をf 2、3月をf 3・・・・12月をf 12の符号とする。

本発明は以上説明したように構成されているので、以下に記載されるような効果を奏する。

(1) 取引の瞬間に決算その他の諸表が完結することにより単に過去の記録にとどまらず、常に現在を把握し将来を洞察する「経営の羅針盤」として前向きの身近かな、必須のものとなる。

(2) 会計簿記に費やされた多大の時間・費用・労力・人件費は即座に回収される上に「機密の保護」「保管の万全」が直ちに即効として現れる。

(3) それにもまして大なる効果は、個人・企業・団体その他の最高又は担当の責任者が容易・簡単に全体像を把握できるから、将来に対する決心・方針の樹立、措置の適切による業績向上のメリットは測り知れない。

(4) また、時間を有効利用して会計人を企画・営業の第一線に活用するときは真に人材を生かすこととなりその効果は頗る大である。

(5) 学生・初心者・家庭の主婦にとっては平易・簡単な操作のため電卓程度の気軽さで興味をもって複式簿記の原理・神髄を得し、一方コンピューターに馴染める最も理想的な「簿記講座」「コンピューター入門」となる。

(6) 専門家である会計事務所にとっては業務のスピード化に貢献する必須のものとなる。

(7) 「瞬間決算完了」「入力件数増大化」「平易・簡単な操作」は相互に相乗的威力を發揮して困難な従来の会計・簿記作業に一大革命をもたらす。「愉快な会計」システムとして経済の発展と労力・時間の省力は生活の充実・向上に役立つ。

(8) また従来の会計演算処理方法では、せいぜい 10 行程度の数値しか入力出来なかつたものが、本発明の方法では 20 行以上入力出来ることが実証されている。

WHAT IS CLAIMED IS:

1. (a) 入力設定セルと出力表示セルとを含む格子状のセルで構成される会計作業画面を作成可能な表計算ソフトをインストールに格納する第 1 のステップと、  
(b) 前記入力設定セルに入力された数値に基づいて、前記出力表示セルに表示される数値を決定する関数式及び／又は計算式を格納する第 2 のステップと、  
(c) 少なくとも N 個の異なる構成からなる前記会計作業画面を呼び出してディスプレイ上に展開配列する第 3 のステップと、  
(d) 所定の入力設定セルに所定の数値を入力する第 4 のステップと、  
(e) 入力された前記所定の数値に基づいて前記関数式及び／又は計算式により所定の演算を行い、演算結果を表わす数値を所定の出力表示セルに表示させ前記各会計作業画面を完成させる第 5 のステップと、  
からなる会計演算処理方法。
2. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、  
前記第 4 のステップは取引発生時に取引単位毎に実行することを特徴とする方法。
3. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、  
前記 N が 8 であることを特徴とする方法。
4. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、  
前記会計作業画面が金の流れの発生を入力するための第 1 画面を含むことを特徴とする方法。
5. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、  
前記会計作業画面が物の流れの発生を入力するための第 2 画面を含むことを特徴とする方法。
6. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、  
前記会計作業画面が商品管理の表示を行うための第 3 画面を含むことを特徴とする方法。
7. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、  
前記会計作業画面が得意先管理の表示を行うための第 4 画面を含むことを特徴

とする方法。

8. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、

前記会計作業画面が経費・貸借の各勘定科目別金額の表示を行うための第 5 画面を含むことを特徴とする方法。

9. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、

前記会計作業画面が決算の表示を行うための第 6 画面を含むことを特徴とする方法。

10. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、

前記会計作業画面が所定の方式に基づく決算書の表示を行うための第 7 画面を含むことを特徴とする方法。

11. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、

前記会計作業画面が経営比率分析の表示を行うための第 8 画面を含むことを特徴とする方法。

12. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、

前記第 4 のステップは会計期間の期首毎に実行することを特徴とする方法。

13. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、

前記第 4 のステップは会計期間の期末毎に実行することを特徴とする方法。

14. 請求項 1 に記載の会計演算処理方法において、

(f) さらに、前記第 1 ～ 第 5 のステップにより完成した前記各会計作業画面を格納した第 1 のフィルムと第 2 のファイルとを作成する第 6 のステップと、

(g) 前記第 1 のファイルを保存及び印刷した後に前記第 2 のファイルを呼び出して展開配列した後再び前記第 1 のファイルを起動する第 7 のステップと、

(h) 前記第 7 のステップにより起動された前記第 1 のファイルに対して会計処理の原則に基づく所定の演算処理を施す第 8 のステップと、

(i) 前記第 8 のステップにより演算処理の施された前記第 1 のファイルを前記第 7 のステップで展開配列された第 1 のファイルに結合させることにより前記第 1 ファイルの最終状態を前記第 2 のファイルに承継させる第 9 のステップとを設けることを特徴とする会計演算処理方法。

## ABSTRACT OF THE DISCLOSURE

(a) 入力設定セルと出力表示セルとを含む格子状のセルで構成される会計作業画面を作成可能な表計算ソフトをインストールに格納する第1のステップと、(b) 前記入力設定セルに入力された数値に基づいて、前記出力表示セルに表示される数値を決定する関数式及び／又は計算式を格納する第2のステップと、(c) 少なくともN個の異なる構成からなる前記会計作業画面を呼び出してディスプレイ上に展開配列する第3のステップと、(d) 所定の入力設定セルに所定の数値を入力する第4のステップと、(e) 入力された前記所定の数値に基づいて前記関数式及び／又は計算式により所定の演算を行い、演算結果を表わす数値を所定の出力表示セルに表示させ前記各会計作業画面を完成させる第5のステップとからなる会計演算処理方法が記載されている。